

個人山行報告書

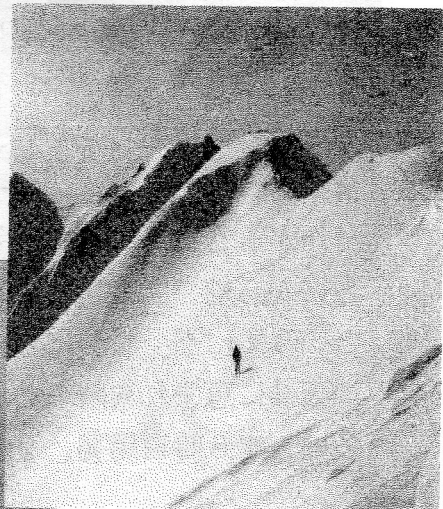
通算山行no	NO.	報告者	富岡 進
年 月 日	2004年2月1日(日・晴)	2万5千円=白馬町	
山 名	唐松岳(2697m)		
体力度=3・まあまあ 技術度=3・雪少ない 危険度=2・雪が少ない 見所=厳冬のALPSと剣岳 自然=山頂は強風だった			
厳冬の唐松岳に上り、滑る			
コースと タイム	八方スキー場7:40(ゴンドラ、リフト)—八方池山荘8:40—唐松山荘12:00—唐松岳山頂12:30—山荘13:10—トイレ小屋14:45—ゴンドラ乗り場15:30		
標 高 差	ゴンドラ終点1830m~唐松岳2697m=867m		
参 加 者 ひ と 言	<p>後藤隆徳(56)=誕生月に厳冬のALPSに上れ感動。前日の阿弥陀岳に続き二日続きの登頂。これも珍しい。しかし、世の中には、凄い方がいることも事実だ。</p> <p>加藤秀子(54)=本当は途中でヤメた。だけど、天の声が聞こえた。「俺たちは、山屋だからな」と。結果的には、もちろん頂上に上れサイ</p> <p>コーの気分だ。スキーも良かった!</p> <p>長岡浩一(44)=穏やかだと、こんなにもたやすく登れるものか。ラッキー! 厳冬の剣岳を見れたよん。</p>		

1月30日 18時 小淵沢インターで阿弥陀岳から下山した後藤CLと加藤と合流。目的地に乙妻山もあがったが唐松岳に決定、白馬にむかう。白馬「養老の滝」にてアルコールを注入。寒気は強いが星のきらめきで明日の好天が期待される。白馬〇〇屋内駐車場泊

2月1日 5時起床、無風快晴。ゴンドラの始発(7時30分)は過ぎていたが、薬大ヒュッテからのリフト運行は8時30分のため20分ほど待つ。リフトを使わずシールの登山者1名。長野の男女のボーダー、ファットスキーのグループは唐松沢を滑降するとのこと。

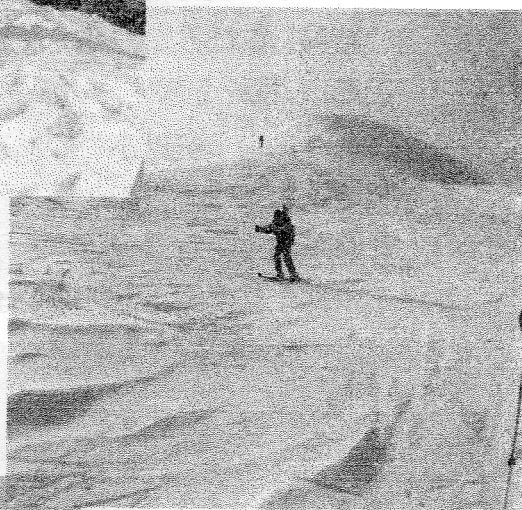
尾根上の雪は風でとばされ岩肌がでていところが多い。斜面はウインドクラストしている。シールの効きは良く順調に高度を稼ぐ。丸山を越えたところで後藤CLと長岡はスキーをデポ、やや遅れて加藤も。富岡はやや上部でデポするが、何を思っていたのかアイゼンとピッケルを持ってきていない。

美しく滑りやすい八方



厳冬期の唐松岳頂上

右・下 浩一の滑り



まったく冬山の基本を忘れた罰金もの。

稜線にでると素晴らしい展望。槍、立山、剣が手に取るように望める。頂上から降りてきた3人と合流。装備不完全の富岡は頂上を断念。稜線直下の雪壁では確保してもらい、滑降に移る。見かけは良いがクラストした雪に難儀する。唐松沢にシュプールが見えた。不帰の嶮からの壁にも見事なシュプールがきざまれていた。良くあんな所を滑るものだ。第3ケルンを過ぎたぐらいから締まった雪となり快適な滑降。トイレ小屋で小休止。その後はあっというまにゲレンデに。ゲレンデは硬く締まって快調に滑れるが足が疲れた。

天候に恵まれ素晴らしい今年の初山スキーとなったが、反省すべきことも多い。16時白馬発、21時 富士インター着。

(今回は、静岡・山スキーの会、富岡さんの投稿です)

追記

1. 最終リフトで待つ時、かなりやりそうな男女と会話。白馬村に住むと言う。男のスキーはフォルク?の190Cm。こんな長いので曲がる?と聞いたら「全く問題ない」とのこと。

結局、彼は不帰のⅡ峰北峰の稜を滑った(落下?)した。以前読んだ記録に、稜を登攀するクライマーとスキーヤーの「眼」が途中で合った、とあったがこれは本当の話だ。

2. 加藤は出発時の足の故障で不調。一時、トップとかなり離れたが後藤、長岡が頂上から3分下った所で再会し、頂上を落とした。後藤、長岡はこの日、二度上った。(追記は後藤記)



